

横越

第 17 号

平成26年2月1日
(2014)

コミュニティ協議会ニュース

発行 横越コミュニティ協議会
事務所 江南区横越出張所
新潟市江南区横越中央1丁目1番1号
電話 385-2111



楽しい地域づくり のために

会長 本間 一人

あけましておめでとうございます。横越地域の皆様にはよいお年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、年末に行われる清水寺の漢字の一字は「輪」でありました。人々の輪やソチオリンピックが近いか東京オリンピックが決定したとか、いろいろ理由があげられました。国民が輪になつて大きなうねりとなつて発展することを望んでいます。私はこの「和」なごやか、平和、も大切にしたいと思っています。最近のニュースは通り魔

新年のご挨拶

江南区長 大沢 藤雄

新年明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひ申し上げます。

横越コミュニティ協議会の皆様には、横越の長い歴史を背景とした奥行きのある文化活動や、地域住民の交流活動を通じて「ふれあいのまち よこし」づくりを進めていただきありがとうございます。また平成十八年の発足以来、住民バスである「横バス」や「地域の茶の間」の開設をはじめ、「元気な横越人づくり」や「横越世代交流会」の開催など生活環境の整備・改善に加え、地域と学校の懸

的な事件や些細な恨みで人を危めることが多く、相手はもろろんのこと、自身も一生台無しにしてしまふことの無いよう、「忍」や「許」などの文字も出てくることを願っています。

昔、ある高僧から教わった言葉があります。「利他」、他を利するであります。人のためになにか；と思うでしょう。逆に利己主義と云う言葉もあります。自分のことばかり考えていたら世の中は争いごとが耐えないと思います。他を思いやる、そんな一年でありたいと思います。

横越地域の皆様が幸せの一年でありますように、地域が明るく楽しい年であることを願って挨拶と致します。

け橋としての交流イベントなどの様々な活動を精力的に企画・運営・実施され、地域の活性化と発展に多大なるご尽力をいただいておりますことに、敬意とともに心より感謝とお礼を申し上げます。

今後とも江南区が目指す「緑と調和した賑わいと安らぎのあるまち」そして「みんなので支え合い、安心して暮らせるまち」の実現に向けて区民の皆様との協働を基本として、スピード感を持って進めてまいりたいと考えておりますので、ご支援とご協力をよろしくお願ひ申し上げます。

結びに、横越コミュニティ協議会の益々のご発展を祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

(仮称) 江南区福祉総合センターについて

江南区社会福祉協議会 事務局長 吉田 啓一

(仮称) 江南区福祉総合センター(以下「福祉センター」と表記します。)
後「福祉センター」と表記します。)
は、区役所の隣接地に平成二十七年四月の供用開始を目指して建設作業が進んでいます。

福祉センターは、新潟市の合併建設計画「新にいがたまちづくり計画」に搭載された施設で「大人から子どもまで、障がいがあってもなくても利用でき、お互いの理解と交流を深め、専門的支援から自主的活動の支援までを行う施設」とすることを目的としています。

また、江南区及び江南区社会福祉協議会では、地域福祉の推進を目指し地域福祉計画と地域福祉活動計画を策定し、その全体の基本理念として「みんな、ささえあい安心して暮らせるまち「江南区」」を掲げ、①地域福祉ネットワークの構築、②相談体制と適切な情報提供体制づくり、③身近な地域の「交流の場」「活動拠点づくり」、④人材の育成と地域の福祉力向上、⑤暮らしの安全確保、の五つの基本目標を定めています。

福祉センターには、これら基本理念及び基本目標を見据え次の三つの機能を持たせ、それに対応する施設を設置することとしています。「地域福祉推進の拠点」としては交流広場や福祉関係共同利用室、地域子育て支援センタ

ーなどを設け、「市民交流・活動の拠点」では授産品ショップや他目的ホールなどを、「ボランティア活動の拠点」としてボランティアルームや情報発信コーナーなどを設置する予定となっています。また、私ども江南区社会福祉協議会も福祉センターに移転することとなっており、平成二十七年四月からこの施設で業務を行う予定です。

以上(仮称)福祉総合センター基本構想をもとに説明しましたが、区民の皆様が積極的に関与していただき、皆様方が積極的に活用されますことを期待したいと思います。



(仮称) 江南区福祉総合センター完成予想図

新しい都市づくり

副会長 佐藤 正明

平成十七年に新潟市に合併して今年で十年目の年となりました。

合併建設計画で約束された事業では横越公民館、中央保育園の建設、よこし公園、阿賀野川フラワースタイン、小阿賀野川サイクリングロードの整備が計画通り竣工されました。

阿賀用水路敷を利用した道路改良や横越地区排水路対策は、県の施行する水路改良工事の遅延により継続して工事が進められません。

二本木地区に新駅の設置事業は、昭和五十八年から言い続けて三十一年目に入ります。

地元関係者の熟度が上がらず計画が遅れておりますが、市では次期総合計画、区ビジョン策定で検討して行くとの事でありませぬ。

長い間通行止めを行っていた亀田跨線橋は昨年十二月三十日から通行可能となりました。

今までの不便が解消されて便利になりましたが、交通事故には注意されたいと願うものであります。

コミ協では、区自治協議会と協

働で、※交通の利便性、※憩いの空間づくり、※歴史・文化・スポーツの振興、※安心して暮らせるまちづくり、※農産物を通じた交通など、江南区まちづくりビジョン計画の策定を協議してまいります。

市では二十六年中に、二十七年からおおむね八年間の次期新潟市総合計画を策定いたします。

横越地区の要望や地域の問題など、各地区コミ協委員に申し付け下さい。



亀田跨線橋

地域住民の足を考える

まちづくり部会 長谷部一裕

最近横越における交通事故は少なくなつたと思う。その原因のひとつにコミ協の活動が考えられる。横木農道と木津線の交差点の信号設置、藤山排水の交差点にも信号機が出来てその周辺での事故も無く、横雲バイパスの上町交差点から橋の間はゼブラ表示を改善してもらつた、これらの結果事故が減少し横越全体の事故も無くなり大変よろこばしいことです。

さて、これからの交通弱者のことを考えると高齢化社会での免許所有者が増え判断力、瞬発力の低下からくる心配だが行政でも高齢者の訓練などその対策をとっているが、自分の判断または家族の判断などで免許を返上する勇気をもつていただきたい。そこで、これらの高齢者や小学生などの利便性を考えてやらねばと思う。

スクールバスも古くなって更改期にきているが故障時や更新時をどの様に考えているのだろうか、公営交通以外のニーズにどう取り組むか、新年のコミ協の課題として考える年としたい。

新年おめでとうございます

横バス協議会 田村 唯次

協議会役員の皆様へ感謝！ 各自治会に感謝！ 横越商工会に感謝！（有）フィールドあがに感謝！ おかげ様で、横越地域の公共交通である横バスの利用状況は年々増加傾向にあります。

今後とも、皆様の暮らしを応援する横バスになれる様努力してまいりますので、宜しくお願い致します。うま年です。何事もうまく行きませう祈念申し上げます。

世代間交流&横越を考える集い

会長 本間 一人



「世代間交流&横越を考える集い」が八月十八日、横越地区公民館で開催されました。小学生から高齢者まで約七十人が参加、五班に分かれて横越の良い点、問題点、理想像などを話し合いました。

まず一番多かったのは「交通」についてです。便利が良いという意見と不便だと感じている意見とが両方出てきました。便利と感じている人は、道路網が整備されている、バスが通っているということの意味していると考えられます。

不便という人は、車がないと絶対的に不便であること、駅を作ってほしい、バスの便が悪い（横バスを休日も動かしてほしい）というものでした。

横越コミュニティ協議会としては、公共交通の充実を望む声（新駅設置、横バス、新潟交通の運行ダイヤ充実）に耳を傾け、高齢者や子供たちいわゆる交通弱者にいかに配慮し、対応することができているか考えていかなければなりません。

次に環境についての意見も多く出されました。

花が美しく、野鳥も居て自然が豊かである。歴史もあり、伝統文化が息づいている（例：さんばいし神楽、北方文化博物館など）、またサイクリングロードもつくられたということとです。また意外と日陰が少ない、遊び場がない、テニスコート、バスケットボールコートがほしいという声もありました。

さらに各地域ごとの活動は活発で

良いが、地域間の繋がりは弱いといった意見が出されました。加えて転入者は溶け込みにくいといった意見もありました。また、主に商業化の観点から大型スーパーが進出した地域とコンビニもない地域との格差を指摘する声も聞かれました。

特筆すべきは、全体として、挨拶がよいということが共通した美点とされています。

横越コミュニティ協議会としてもこれらのことを考えてみました。そして環境や地域の結束等を語る場合のキーワードは「都市化」ではないかと思ひ当りました。たぶん小中高校生の皆さんは、とにかく都市化（大型スーパー、商業施設の進出、便利な交通網の整備等）を望んでいるものと思ひましたが、同時に豊かな自然を大切に考え、地域に根付いた伝統文化に敬意を払い、地域の結束、地域間の連繋などを重視して行いました。挨拶もしっかりできます。こういう感覚はすばらしいものです。

こうした意識を強く持ちながら都市化を進めることは横越の未来を非常に明るいものにすると思ひます。わたくしたちは、こうした話し合いを持ちながら、良い点を残していくという意識を持つことで、新しい時代になっても、その良さを保っていくことができると思ひます。

いみじくもこの会の全体を監修していただいた和田一良先生がまとめのお話の中で「様々な人がコミュニティとかかわる仕組みは大切。今回の会を生かして、今後も交流を深めてほしい」と呼びかけられたことはこのことを物語っていると思ひます。



春まじどおしいフラワーライン

阿賀野川フラワーラインの整備も完成いたしました。そして上の写真のとおり横雲橋の下流約100m程の堤防上の初代横雲橋の地点に阿賀野川フラワーライン、サイクリングロード案内図が設置されました。横雲橋の命名の経緯やかつて川から直接取水していたこと、醍醐寺の僧侶が立ち寄ったこと、などが記載されています。これらの設置についてはコミ協活動の一環で区に設置のお願いをしたものです。



新年あけましておめでとうございます。いつも、横越コミュニティ協議会の活動にご理解とご協力を頂きありがとうございます。今年も教育文化部会は、地域の皆様へいろんな発信をしていきたいと思っております。しかし活動内容を考えるとき、よい案が浮かばないことも多々あります。自治会を通して、直接メンバーにでも結構ですので、ご意見頂けると大変ありがたいと思っています。

さて、二十六年度の活動計画はまだなのですが、以前「漢字の出前教室」を開催しましたが、「語彙力」を豊かにする漢字は大切だとわかりました。コミュニケーション能力を高めたり、理解力や思考力が深まり、情緒の力が養われるのです。このような活動がまた出来たらよいと思います。：昔話をじいちゃん・ばあちゃんから聞いたことはありませんか。心がほんわか温かくなったものです。難しい漢字を教えてもらい、すぐに覚えたものです。忘れられない思い出です。

国内外では、喜ばしいこと、悲しいこと、いろんなニュースが毎日のように報道されています。震災の爪痕も、まだ深く残っています。被災された方々の心が少しでも「元気」になるよう祈るとともに、その方々が「望んでいること」が一日も早く叶うよう、協力していきたい気持ちでいっぱい입니다。この国のため私たちは何ができるか、考えなくてはならないと思います。そしてその思いは、未来を担う子どもたちのためでもあると思います。

教育文化部会 坪谷さゆり